

# 隨泉寺寺報

平成22年(2010年)2月号 第474号

TEL 082-892-0217 http://www.zuisenji.com/

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

仏婦講座

講師 西区妙蓮寺住職 高橋哲了師

講題 『念仏のすくい』

■ 如月忌 2月7日は、「如月忌」です。

如月忌 とは 浄土真宗本願寺派の仏教婦人(女性)活動を始められた九條武子夫人のご命日を偲ぶ法要です。

宗門の仏教婦人会結成や関東大震災の被災者救援活動に取り組み、女子教育や病院設立にも尽力された方です。また、与謝野晶子や柳原白蓮と交わった歌人で、とてもお綺麗な女性でした。

【あれを見よ 明日は散りなむ 花だにも いのちの限り ひと時を咲く】  
「幼児が母のふところに抱かれて、乳房をふくんでいるときは、すこしの恐怖も感じない。すべてを託しきって、何の不安も感じないほど、遍満している母性愛の尊きめぐみに、跪ひざまずかずにはおられない。」

【いだかれて ありとも知らず おろかにも われ反抗す 大いなるみ手に】  
『九条武子 歌集と無憂華』

## 2月の法座予定

- 2月 7日 ..... ダーナの実践日
- 2月 7日 ..... 掃除 中須賀・コモンライフ
- 2月14日 昼席午後1時より ..... 仏婦講座要
- 2月14日 夜席午後7時より ..... 出張法座 中須賀 宍戸司氏宅
- 2月15日 朝席午前10時より ..... 会員物故者追悼法要 おとき
- 2月15日 昼席午後1時より ..... 仏婦講座
- 2月17日 午前10時より ..... 安芸北組門信徒講座
- 3月 2日 午後6時より ..... 門信徒会本部役員会

## ☆第50回仏婦講座

2月14日・15日と第50回仏婦講座を開催します。15日の朝席は物故会員の追悼法要を勤めます。今年は7名の会員の方がお浄土に還られました。6名の方はいずれも長生きでした。戦前、戦中、戦後を じて激動の時代を生き抜いて、ものの豊かな、平和な時代を築いてくださいました。また栢本松美さんは、婦人部の役員として仏教婦人活動にご尽力いただきました。生前を偲びながら大切に勤めさせていただきます。

仲島 テルコ	89才	平成21年2月20日	瀬野川団地
竹本 綾子	87才	平成21年4月30日	長者原東
川野 ミヤコ	103才	平成21年5月21日	上平原第2
栢本 松美	70才	平成21年8月31日	長者原東
上松 ミツコ	93才	平成21年9月13日	鴨の巣
前田 トシコ	90才	平成21年9月17日	高部
山下 アキノ	97才	平成21年11月6日	井原



## ☆表彰のバッジ

1月15日御正忌報恩講の御満座の後、1年間よくお参りになられましたという意味合いで、今年一年の聴聞出席表を元に、表彰のバッジをさしあげています。

それが去年はご褒美のバッジがありません。いくら探しても行方不明で、どこかにしまい忘れてわからないのです。坊守にどこかに入れたので探してくれと、一年間探していました。

結 どうも皆さんに出して、品切れになったのだという結論に達しました。坊守にも【あなたがどこかにしまい忘れた】と濡れ衣を着せていました。



よく考えたら、20回出席して下さったら一個ですから、一人で4つも持つておられる人もおられるわけですから、品切れになっても不思議ではありません。いやむしろ当然です。計算違いで足りなくなっていたのです。これはうれしい誤算です。ということで今年は新しくバッジを注文しました。今年

は2年分で銅バッジもたくさん出ました。今年の皆勤賞は井原の古堀政子さん、荒野の佐々木継子さんでした。体調の悪いこともあったでしょう。都合の悪いこともあったでしょう。雨の日も、風の日も。よく頑張りました。おめでとうございます。

## ダーナの日

ダーナは、仏教語で「布施」のことで、「よろこんでほどこしをしましょう」ということです。いつでも・だれでも・自分の出来る範囲で実践できるダーナであり、①あたたかいまなざし②にこやかな表情、③優しい言葉、④精一杯の行い⑤いつくしみ深いところ、⑥ひとにあたたたかい席を⑦気持ちよく迎えるところがけ の7つを無財の七施といいます。

2月

阿弥陀仏は光明なり

光明は智慧のかたちなり

『唯信砂文意』（註釈版聖典 710 頁）

仏になるとは、さとりを開くことです。さとりを開くとは、物事を正しく見る智慧を得ることだといえます。阿弥陀仏とは、インドの言葉を音訳したのですが、和訳しますと、無の光明と寿命をもった仏さまという意味です。太陽の光に照らされて、私たちは自分の服や靴の汚れがわかります。また、歩いていても、夜道ならば、舗装の一部がはがれていて、けつまずくことがあっても、陽があたっていれば、はがれたところに気付きますから、けつまずくことはありません。

聖人が「阿弥陀仏は光明なり、光明は智慧のかたちなり」といわれるのは、阿弥陀という言葉の意味を述べただけではなく、聖人が光明によって、今まで見えなかった自分の心の汚れを見つめさせられるとともに、智慧の光明によって仏への道を進ませていただいたと、感じておられるからだと考えられます。聖人の光明に照らされた生活は、私たちの日常に置き換えるとどのようになるのでしょうか。

榎本栄一さんという念仏の教えをよろこばれた詩人がいらついやいました。その方に「あるく」という詩があります。

私を見てくださる 人があり

私を照らしてくださる 人があるので

私はくじけずに こんにちをあるく（『群生海』より）

この詩の「人」とは、誰のことかはわかりません。阿弥陀さまなのか、親鸞聖人なのか、同宿の友なのか、それとも日々出会う親しい人や家族のことなのでしょうか。「照らしてくださる」とは、心を照らすことだと考えますと、「人」は阿弥陀仏と考えられますが、もしかすると、榎本さんは、親鸞聖人、同宿の人、周りの人々の言葉や態度に、仏の光明を見いだされたのかもしれない。

他人の目があると、私たちは緊張します。「失敗はできない」「いいところを見せよう」と思い、ときには、「変なことはできない」と思います。ところが、幼い子どもに親の目があると、子どもはがんばりもしますし、心強くも思います。

私を照らしていただく光は、私の間違いを示しながら、私をはげまして、この道でよろしいと私の進路を示していただけます。

この光明があるから、くじけそうなときがあっても、くじけることなく日々歩いていけると、榎本さんは示しておられると思われま

す。



「一番好きなもの」 関本理恵（18歳）

私は高速道路が好きです

私はスモッグで汚れた風が好きです

私は魚の死んでいる海が好きです

私はゴミでいっぱい町が好きです

殺人、詐欺（さぎ）、自動車事故が好き

そして、何より好きなのは

多数の人が 涙を流す 血を流す 戦争が大好きです

飢えと 寒さで 戦って死んでいく姿を見ると

背中がぞくぞくするほど 楽しくなります

毎日毎日 大人が 子供が 生まれたばかりの赤ん坊が

次から次へと 死んでいるかと思うと

心がゆったりします

歴史を歴史と感じ 過去を過去として思う

無感情な 時の流れに、

自分自身にたまらなく喜びを感じます

こんな私を助けて下さい

誰か助けて下さい

たった一粒でもいいのです

こんな私に

涙というものを 与えて下さい

たった一瞬でもいいのです

こんな私に

尊さというものを与えて下さい

私の名前は 人間といひます



初めてこの詩に出あったときはびっくりしました。なんと恐ろしい人だろう、なんと怖い人だろうと、そして可愛そうな人だろうと。

そして最後の一行でびっくりしました。それは私のことだったので。自分の姿を客観的に知ろうとして私たちは自分の行動、心の動きを反省して考えます。そして、よりよい方向を目指そうとして、その反省の心をさらに反省する……。しかし、反省を繰り返す意識の奥底の内 の“私”は最後まで残ります。最後の“私”のところに、我見・邪見が潜んでいると仏教は教えてくれるのです。仏の光に照らして初めて気づくことはびっくりする経験であるといえるでしょう。